日本林業技士会よりのご挨拶

日本林業技士会会長　小林　洋司

梅花の香る今日この頃ですが、皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、技士会の運営、活動推進に、ご理解ご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。

さて、正月早々、能登半島地震に見舞われ、石川県を中心として甚大な被害に見舞われ、被害者には、心よりお見舞い申し上げます。一日にも早く復旧することをお祈り申し上げます。

林野関係の被害も石川県、富山県、新潟県、長野県にわたり山地崩壊、林道崩壊におよびました。この調査には林野庁を中心として治山、林道関係技術者の調査によって迅速に行われ、林野庁は、山地災害緊急復旧工事に採択し、復旧が迅速に行われるよう対応しました。対応された技術者も、ICT 技術を駆使し迅速に調査し、たいへん貢献したと聞いております。私たちの仲間として誇りに思います。

世界情勢は、中東での戦争勃発、相変わらずのロシアのウクライナ侵攻等によるエネルギー不足、食糧不足さらに政府、日銀による金融政策の失策による極端な円安からくる物価高、賃金の停滞、企業の原料高から来る業積の不振など厳しい経済状況に見舞われております。

林業を見ますと「建築ブーム」による「ウッドショック」と称し、製材品の不足から木材価格高騰が一時期続きましたが、また立木価格

は元に戻ってしまいました。林業現場では、未だ、再造林が不可能など厳しい状況が続いているようです。林業事業体数は激減、現場では人手不足と労働死傷事故の増加です。

林野庁の施策であります、環境税、環境譲与税に伴う、新たな林野行政に期待したいと思います。

このような状況の中、林業現場で活躍する「林業技士」の皆さんはたいへんな状況と思います。課題山積み、問題山積み、ここでは触れませんが林業労働災害の多発、林業作業者の不足、立木価格、材価の低迷、どれを考えても解決困難な問題ばかりです。現場作業の指導的立場、現場のリーダーとしての立場、重圧は大変と思います。

現場と言っても「林業技士」の皆さんは、行政、事業体としての会社、森林組合、県、市町村、団体の中で活躍しております。それぞれの立場でこのような時期でこそ、何かアイデアを出し問題解決に当たって欲しいと思います。大変な時期を乗り切って初めて、明るい未来が開けます。皆さんの活躍を期待しております。

会員皆様のご健勝とご発展をお祈りいたします。

日本林業技士会の活動に、ご支援、ご指導、ご協力よろしくお願いします。

令和６年　　２月